



CHAPTER 2

バージョン 8.x のアラームの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのアラームの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 8.x のアラームについて」 (P.2-1)
- 「バージョン 8.x のアラーム定義」 (P.2-1)
- 「バージョン 8.x のアラーム定義の表示」 (P.2-2)
- 「バージョン 8.x のアラーム設定」 (P.2-2)

バージョン 8.x のアラームについて

Cisco Unity Connection Serviceability のアラームは、実行時のステータスとシステムの状態に関する情報を提供します。そのため、システム関連の問題の解決に役立ちます。たとえば、アラームを使用して、MWI を設定可能なポートが存在するかどうかを判断できます。アラーム情報には、カタログ、名前、重大度、説明、推奨処置、ルーティング リスト、およびパラメータが含まれています。

アラームの有効/無効を切り替えて、ローカル サーバまたは指定したリモート サーバに syslog として表示できます。表示する重大度を設定することもできます。

アラームを収集するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用します。アラームを表示するには、RTMT で SysLog Viewer を使用します。

バージョン 8.x のアラーム定義

アラーム定義は、アラームの意味やアラームからの回復方法など、アラーム メッセージに関する記述です。

[Alarm Message Definitions] ページでアラーム情報を参照します。アラームを選択すると、アラーム情報の説明と推奨処置が [Alarm Information] ページに表示されます。トラブルシューティングを支援するために、定義にはアラーム名、状態、重大度、説明、推奨処置、ルーティング リスト、およびパラメータが含まれています。

バージョン 8.x のアラーム定義の表示

『*Alarm Message Definitions for Cisco Unity Connection Release 8.0*』でアラーム定義を検索して確認できます。このドキュメントは、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/alarm_messages/80cucalmmsgdefs.html から入手可能です。

バージョン 8.x のアラーム設定

この項では、アラームを有効/無効にする方法について説明します。該当する手順を実行します。

バージョン 8.x のアラームを有効にするには

-
- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Alarm] > [Configurations] を選択します。
 - ステップ 2 [Alarm Configurations] ウィンドウで、該当する処置を実行します。
 - SysLog Viewer のアプリケーション ログ領域でアラームの記録を可能にするには、[Enable Alarm] チェックボックスをオンにします。
 - リモート syslog サーバ上でアラームの保存を可能にするには、[Remote Syslogs] の下の [Enable Alarm] チェックボックスをオンにして、[Server Name] フィールドに、リモート syslog サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - ステップ 3 アラームを有効にした syslog の下の [Alarm Event Level] フィールドで、必要な重大度を選択します。
 - ステップ 4 [Save] を選択します。
-

バージョン 8.x のアラームを無効にするには

-
- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Alarm] > [Configurations] を選択します。
 - ステップ 2 [Alarm Configurations] ウィンドウで、該当する [Enable Alarm] チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 3 [Save] を選択します。
-